【草花の部屋】

ドイツアヤメ（アヤメ科アヤメ属　Iris germanica）

和名：ドイツアヤメ（独逸菖蒲）　別名：ジャーマンアイリス

英名：German iris

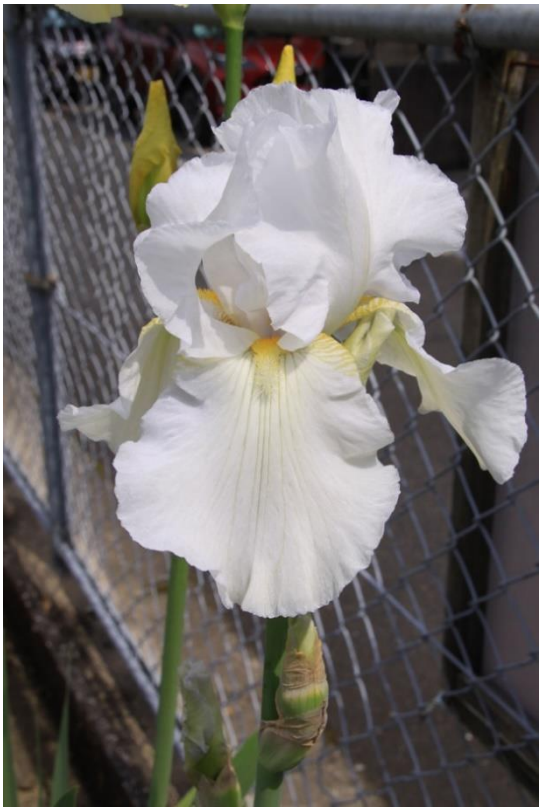
キジカクシ目　多年草　　原産地：ヨーロッパ

花言葉：炎、情熱、使者、豊満、恋のメッセージ、優雅、素晴らしい結婚　他

花色：赤、桃、橙、青、紫、白、黄、複色

← 写真-１　ドイツアヤメ
撮影日：2016 年 6 月 3 日
撮影場所：ジヴェルニー(フランス)
モネの家にて
撮影者：M　さん

→ 写真-２　ドイツアヤメ
撮影日：2021 年 4 月 24 日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M　さん



↑→ 写真-３、４　ドイツアヤメ
撮影日：2021 年 4 月 24 日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：Ｍ　さん

写真 1 は、ジュヴェルニー(フランス)にあるモネのアトリエを訪れた際、モネの庭に咲いていました。庭の一角に、綺麗な花が・・と思い、近寄って見るとドイツアヤメでした。写真のような彩りは始めて見ました。写真２～４は大和郡山市郊外の児童公園に植えられていました。

ドイツアヤメはヨーロッパに野生する自然交雑種ゲルマニカをもとにして、ほかのいくつかの原種も取り入れて交配育成が行われた植物で、野生のものはなく、1800 年代の初期にドイツ、フランスで品種改良され、その後、アメリカが多数の品種を出しているそうです。

花期は 5 ～ 6 月ごろで、花序は花茎頂部に 2～3 個の花を咲かせます。単色の他、上の弁と下の弁で色が異なるものも多く、ドレスをまとったような優雅な花の姿が個性的で香りもあります。近年は育種が進んで、下の弁が垂れずに横へ大きく広がり、フリルやフリンジが入った品種も多く育てられているそうです。また、草丈 1m ぐらいの高性種から 10～20cm のミニタイプまで、大きさにもバラエティーがあり、開花期の早晩性も見られるようです。

葉は跨(こ)状(equitant)で葉身は剣形で粉白色を帯びます。また、地際の根茎が丸く大きく膨らんで球根のようになり、横に這うように伸びて株が広がり、殖えます。

日本へは明治初期に渡来したそうですが、その和名は学名のイリス・ゲルマニカ(Iris germania)や英名のジャーマンアイリス(German iris)に由来し、学名や英名の直訳のドイツアヤメの名前が大正、昭和初期の園芸書に紹介されているそうです。学名のイリス・ゲルマニカは、学名の命名者の所にドイツから送られてきたので、命名者が、ドイツ固有種と思い込んで名付けたもので、間違いであることは定説となっていますが、訂正されることも無く使われているそうです。学名(属名)のイリスはギリシャ語の“虹”の意で、ギリシャ神話の虹の女神“イリス”に由来し、このイリス属は花色が多彩で、色鮮やかなので、虹を連想させることから付けられたそうです。